

事業番号	5	事業名	現代日本文学翻訳・普及事業
------	---	-----	---------------

評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

- 代表的な日本文学の翻訳については既に民間部門において十分に行われている。
- 翻訳・普及のコストが高すぎる。
- 「誰をどう世界に売り出し、どの賞をとらせるのか」戦略が必要。『お客様』が誰なのか全く見えない。10年で17億円もの金（税金）が投下されているのにその戦略策定がなされていない。そのための調査も行われていないのだろう。大学の（翻訳系の）先生を選考委員とした、なれ合いの構造になってはいないか。
- 質の担保について確実な基準がないにもかかわらず、一方で民間または国際交流基金など他機関でも行われている。
- 客観的な評価基準もなく、また、検討もなされていない。多様な人的ネットワーク、書評のインデックスの使用でさえ行われていない。
- 税を投入する事業としては極めて不十分な内容。
- 翻訳事業における選定基準が明確でない。
- 成果の評価が不十分である。
- 事業の目的が重要であることは理解できるが、外国の事例研究も含めて、抜本的改善をすべきである。
- 有意義な事業であるので基本的には継続するべきであると考え。但し、以下の点で改善が望まれる。
 - 1) 翻訳事業については、翻訳作業を納期内に仕上げられる委託先を選び翻訳未了の数を減らすべきである。また、翻訳の質の確保及び4言語だけでなく多言語への翻訳も考えるべきである。
 - 2) 翻訳者育成事業については、単にコンクールだけでなく長期的視野から各言語の翻訳者を養成するべきである。特に日本語教育と関連づけて充実させるべきである。
 - 3) 翻訳され刊行された成果について検証は必要である。
- 日本の本質的マインドを世界に発信すべき時代。どのような「本質」をとらえるかを基に古今の諸作品の中からある「文脈」を複数抽出し、その文脈を構成する作品を丁寧に翻訳していくという方法論に切替えてはどうか。（戦後作品中心という設定の仕方はあまり戦略性を感じない。）
- 受信型から発信型へ転換するというのはある種の文化的革命。海外での日本語学習者のサポート事業との連携も発信を協同して進める姿勢として重要ではないか。

評価結果

廃止

廃止	3名
抜本的改善	3名（実施主体0名、事業規模0名、事業内容3名、予算執行0名、その他0名）
一部改善	0名（実施主体0名、事業規模0名、事業内容0名、予算執行0名、その他0名）
現状通り	0名

（注）抜本的改善、一部改善の（ ）書きは改善内容を示し、複数選択を可能としている。

とりまとめコメント

本事業については、「廃止」3名、「抜本的改善」3名との結果を踏まえ、「廃止」という結論とし、以下の2点のコメントを付すこととする。

① 海外に日本文学を発信するためには翻訳は極めて重要であるが、日本文化の発信を国がどのように取り組むべきかの戦略を踏まえ、民間の活動に委ねるべきところは委ねるべき。

なお、既に国費を投じて翻訳済みの未出版作品については、翻訳作業を納期限内に完了させるなど執行の在り方に留意しつつ、期間を区切った上で一定の配慮について検討すべき。

② 優秀な翻訳者を発掘・育成することは、国の事業としては重要であり、効率的・効果的な支援の方策を検討すべき。